

平成18年度猪名川町中学校学習到達度調査の結果について

猪名川町教育委員会学校教育課教育支援室

調査目的

猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、領域や観点からその実態を分析することにより、学習指導上の問題点及び学習指導の改善点を明らかにする。

調査内容

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

調査対象

町内の公立中学校第2学年の生徒
調査対象教科は、国語・数学・英語〔B〕

調査日

平成19年1月24日(水)

調査結果

【中学校の調査結果】

町内全体

		正答率(%)		
		期待正答率	全国平均	調査結果
中学校第2学年	国語	69.2	71.5	76.8
	数学	65.2	66.1	76.9
	英語〔B〕	64.3	68.9	73.9

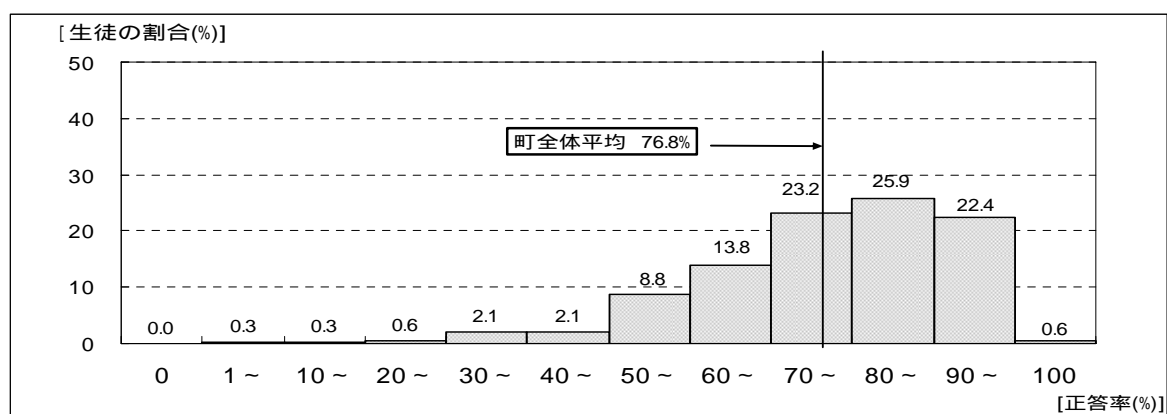
国語の正答率

期待 正答率	全国 平均	町全体
69.2	71.5	76.8

中2国語の町全体正答率は76.8%で、期待正答率を7.6ポイント上回っている。

町内全体

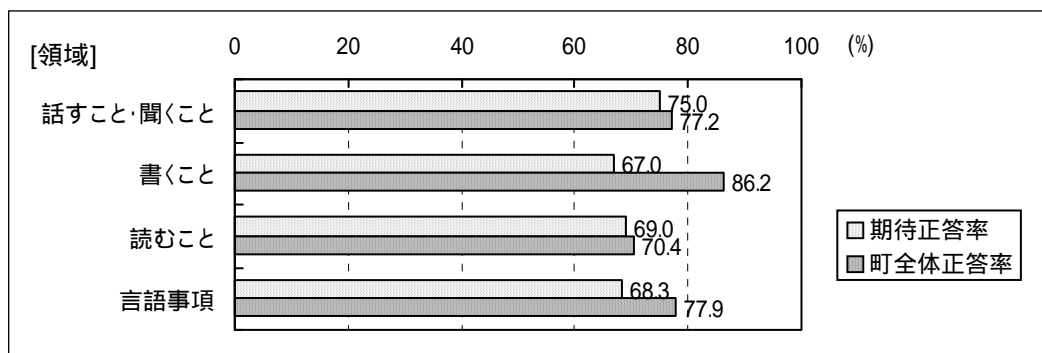
正答率	0	1～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100
生徒の 割合	0.0	0.3	0.3	0.6	2.1	2.1	8.8	13.8	23.2	25.9	22.4	0.6



町全体では、正答率80%以上の生徒が48.9%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が5.4%存在する。

(1) 領域ごとの分析

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
期待正答率(%)	75.0	67.0	69.0	68.3
町全体正答率(%)	77.2	86.2	70.4	77.9



話すこと・聞くこと

期待正答率を2.2ポイント上回り、正答率は77.2%であった。

小問ごとに見ていくと、**1**(1)の発言者の立場と理由を聞き取る問題では、正答率が62.9%と期待正答率を2.9ポイント上回ったが、(2)の発表の仕方の方の工夫については、正答率が65.0%と期待正答率を5.0ポイント下回った。また、(4)の自分の意見と理由を書くところでは、正答率は94.0%と期待正答率を9.0ポイント上回った(中間点を含む)。

今回の聞き取りでは、双方の立場がはっきりと分かれるため、意見発表の流れをある程度予想できるはずである。そう考えると、もう少し高い正答率を期待したかった。

書くこと

正答率は86.2%と、期待正答率を19.2ポイント上回った。

三段落の構成を考えて書くことについての正答率は83.2%と、期待正答率を18.2ポイント上回り、その他の小問も全て期待正答率を大きく上回っている。

書くことについては満足できる状況であり、指導の成果と言える。今後も、段落意識を持って書くことを継続的に指導したい。

読むこと

正答率は70.4%で、期待正答率を1.4ポイント上回った。

②の説明文では、各問の平均正答率が64.6%と、期待正答率を1.2ポイント下回った。小問ごとに見ていくと、(1)の文章の展開をとらえて文を挿入する問題では、正答率が71.2%と期待正答率より8.8ポイント低かった。また、(3)の文章の展開に即して内容をとらえ記述する問題では、2問中1問が期待正答率を15.3ポイント下回り、34.7%の正答率となった。問題が何を問うているのが理解できていない生徒が多かったようである。

③の文学作品の読み取りでは、各問の平均正答率が79.1%と期待正答率を5.3ポイント上回った。(2)の文脈をとらえながら読む問題でも、正答率は95.0%と期待正答率を10.0ポイント上回った。他の小問の正答率も、期待正答率と同程度もしくは上回っており、文学作品の読みについては、おおむね満足できる状況と言えるだろう。

言語事項

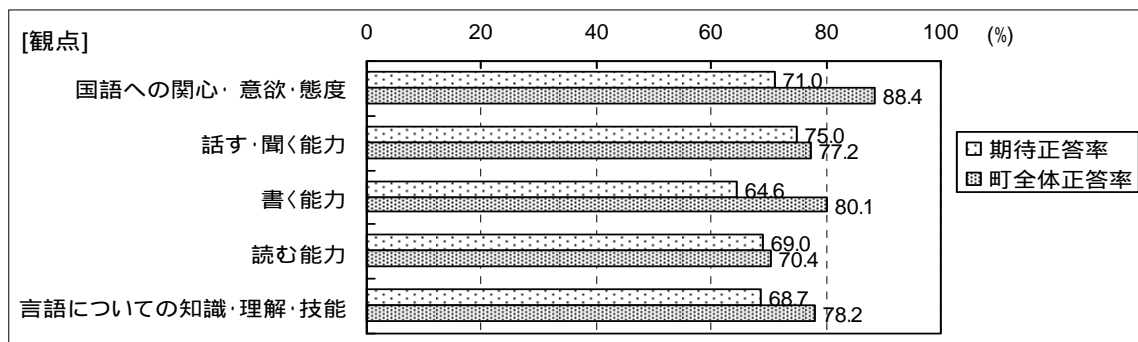
正答率が77.9%と、期待正答率を9.6ポイント上回った。

文法の正答率は、④(1)の主語と述語の関係についての問題で84.1%、(2)の自立語と付属語についての問題で60.6%と、いずれも期待正答率を上回った。また、語句に関しては、⑤(1)の類義語の問題では、期待正答率を12.4ポイント上回り、正答率は92.4%となったが、(2)の同訓異字の問題では、期待正答率を13.8ポイント下回り、正答率は46.2%であった。

漢字の読みについては、各問の平均正答率は88.0%と、期待正答率を9.2ポイント上回った。書きについても、期待正答率を15.0ポイント上回り、平均正答率は75.0%であった。漢字の読み書きともに、満足できる状況である。

(2) 観点ごとの分析

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
期待正答率(%)	71.0	75.0	64.6	69.0	68.7
町全体正答率(%)	88.4	77.2	80.1	70.4	78.2



国語への関心・意欲・態度

期待正答率を17.4ポイント上回り、正答率は88.4%となった。

無解答は、話すこと・聞くことの自分の考えを書くところで0.6%、説明文の読み取りの記述のところでは6.5%と7.4%、作文のところでは2.9%であった。気になるのは、説明文の読み取りの記述のところである。確かに、書かれている内容が理解できなくて答えられなかった生徒もいるだろうが、こうした難しい問題に取り組むことに対して抵抗感を持つ生徒が増えていることも事実である。書く機会を授業の中に取り入れて、まず自分なりの答えを書く習慣を身につけさせたい。

話す・聞く能力

聞き取りの問題では、どのような場面での発表（話し合い）であるのかをまず押さえる必要がある。大まかな状況を押さえることで、何をポイントにしてメモを取っていったら良いのかがわかるからである。

この問題では、誰が、どのような立場で、どんなことを言ったのかを的確に聞き取ることが求められる。的確にメモを取る力を身につけさせるには、いろいろな場面を想定してメモの取り方を学習できるようにしたい。また、1（2）のような発表の仕方（話し方）の工夫については、聞き方での指導だけでなく、話し方の学習の中できちんと指導しておくことが大事である。

書く能力

作文問題は、グラフから読み取った情報について説明するものになっている。こうした問題は、PISA型「読解力」を身につけさせるという視点からも、今後さらに重視されていくものである。文章だけでなく、いろいろなテキストを題材として取り上げることも大事である。その際に、基本となる説明文や意見文の書き方をきちんと身につけさせておくことも考えたい。

読む能力

説明文では、今回のように少し内容が難しくなると、要点を押さえながら読み進め、大まかに要旨をとらえることができなくなる生徒が多い。すると、どれだけ多くの文章を読ませているかが問われてくる。教科書で扱う読み教材に満足せず、いろいろな説明文を読ませ、要旨を素早くまとめる学習を多く取り入れたい。

文学作品については、ストーリーに沿って事件や心情を読み取るだけでなく、言葉や表現の効果を考えたり、作品の構造について分析したりするなどの学習を取り入れていくことが大事である。

説明文ならびに文学作品の学習を通して、いろいろな文章を読む力を身につけさせたい。

言語についての知識・理解・技能

言語事項に関しては、指導の効果が少しずつ出始めている。文法については、知識として覚えるのではなく、実際に自分が文章を書いたり話したりする際に効果的にはたらく場面を想定して、指導するとよい。

漢字については、日常生活の中で使う字に重点を置いたり、辞書を活用したりするなど、実際に使う場面を想定して指導したい。授業の中で指導の時間が十分にとれないこともあるが、継続的に指導していくことが大切である。

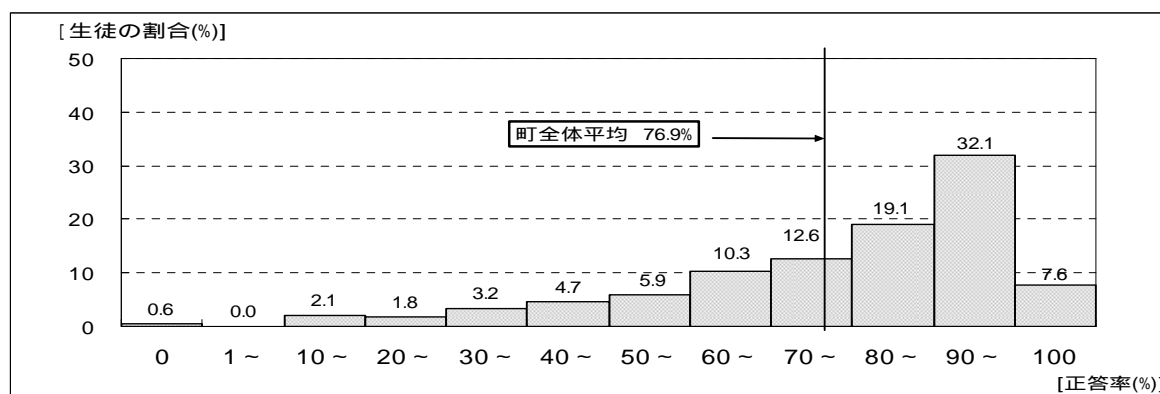
数学の正答率

期待正答率	全国平均	町全体
65.2	66.1	76.9

中2数学の町全体正答率は76.9%で、期待正答率を11.7ポイント上回っている。

町内全体

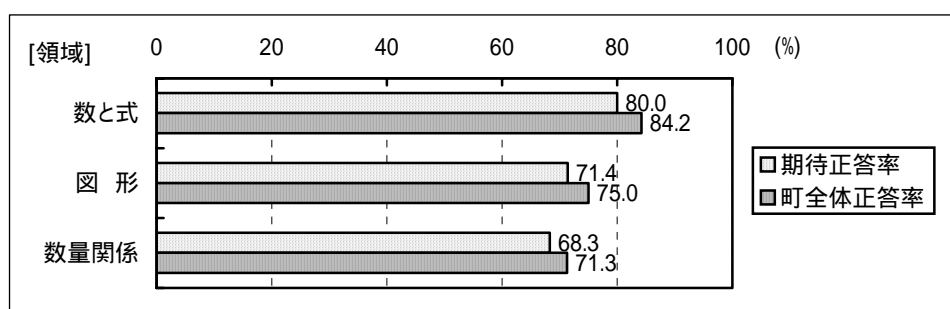
正答率	0	1～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100
生徒の割合	0.6	0.0	2.1	1.8	3.2	4.7	5.9	10.3	12.6	19.1	32.1	7.6



町全体では、正答率80%以上の生徒が58.8%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が12.4%存在する。

(1) 領域ごとの分析

	数と式	図形	数量関係
期待正答率(%)	68.6	61.3	64.5
町全体正答率(%)	82.3	72.4	74.7



数と式

正答率は82.3%で、期待正答率68.6%を上回る結果である。小問11問すべての正答率が期待正答率を上回っていることから、学習の状況は「良好」と判断できる。正答率が期待正答率を下回る問題がないことと、無解答率が最も高い問題でも2.4%と低いことから、特に問題となる点は見あたらない。

図形

正答率は72.4%で、期待正答率61.3%を上回る結果である。小問8問すべての正答率が期待正答率を上回るか同程度と考えられることから、学習の状況は「良好」と判断できる。

しかし、大問11の証明の間違えを指摘し、その理由を明らかにする問題では、正答率は期待正答率を上回っているものの、誤答率も40%を超え、証明の中で誤って結論を使っていることに気づいていない生徒が多い。生徒に証明の力をつけさせることは容易ではないが、形式的な記述より根拠を明確にする指導を行っていくことが大切である。

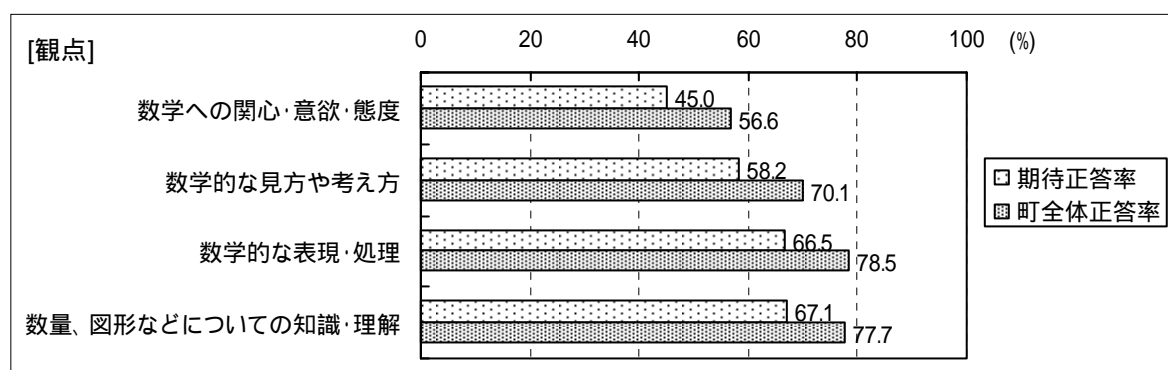
数量関係

正答率は74.7%で、期待正答率64.5%を上回る結果である。小問11問すべての正答率が期待正答率を上回るか同程度と考えられることから、学習の状況は「良好」と判断できる。

しかし、大問5(1)では、の増加量4を $= 4$ としてyの値を求めた誤答 の出現率が23.8%（正答率60.6%）と高いことから、増加量についての理解を深める必要がある。

(2) 観点ごとの分析

	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量、図形などについての知識・理解
期待正答率(%)	45.0	58.2	66.5	67.1
町全体正答率(%)	56.6	70.1	78.5	77.7



数学への関心・意欲・態度

正答率は56.6%で、期待正答率45.0%を上回る結果である。小問3問すべての正答率が期待正答率を上回るか同程度と考えられることから、学習の状況は「良好」と判断できる。

形式的な計算を得意とする生徒は多いが、大問9(4)や大問11のように、自分の考えを文章にまとめたり、理由を明確にすることを得意とする生徒は少ない。生徒一人一人の意見を尊重して取り上げ、指導者と生徒と一緒に模索していく試行錯誤型の授業をより多くの場面で展開すれば、生徒の「やってみよう」という学習意欲を喚起することができる。

数学的な見方や考え方

正答率は70.1%で、期待正答率58.2%を上回る結果である。小問11問すべての正答率が期待正答率を上回るか同程度と考えられることから、学習の状況は「良好」と判断できる。

しかし、大問9(4)の自分の考えを記述する問題では、無解答率が9.4%と全問中で最も高いこと、また、大問11では誤答率が42.9%と高いことから、自分の考えをことばで表現することや、証明の根拠を明らかにすることを苦手としている生徒が多いことが分かる。

授業の中で、生徒に自分の解答を説明させたり、グループ学習を取り入れて、生徒同士の教え合いや意見交換を活発にさせるなど、数学的なコミュニケーション能力を高めていくことが大切である。

数学的な表現・処理

正答率は78.5%で、期待正答率66.5%を上回る結果である。小問24問すべての正答率が期待正答率を上回るか同程度と考えられることから、学習の状況は「良好」と判断できる。

ただし、大問10の図形の角度を求める問題については、さらなる向上が望まれる。特に(1)、(2)は補助線のひき方によって数通りの求め方が考えられ、補助線の活用を考えさせるのに適した問題でもあるので、丁寧に指導したい。

数量、図形などについての知識・理解

正答率は77.7%で、期待正答率67.1%を上回る結果である。小問12問すべての正答率が期待正答率を上回るか同程度と考えられることから、学習の状況は「良好」と判断できる。

特に問題となる点は見あたらないが、例えば「比例と反比例の違いをことば、表、式、グラフ等を使って簡潔に表しなさい。」というような問題を通して、深く掘り下げて知識を確実に身につけさせる指導が必要である。単なる知識としてではなく、思考活動に生きて働く知識として身につけさせることが大切である。

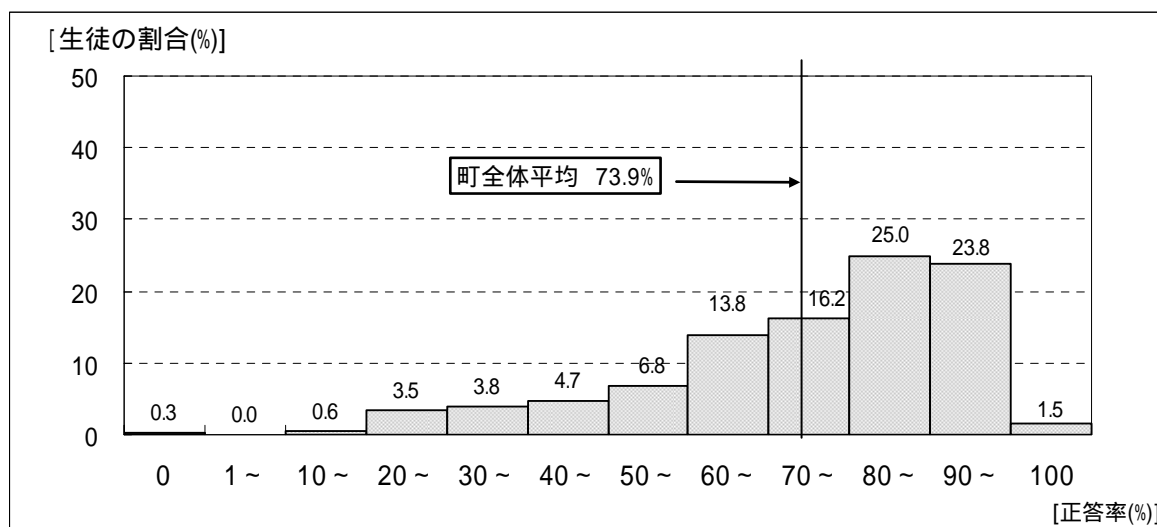
英語の正答率

期待 正答率	全国 平均	町全体
64.3	68.9	73.9

中2 英語の町全体正答率は73.9%で、期待正答率を9.6ポイント上回っている。

町内全体

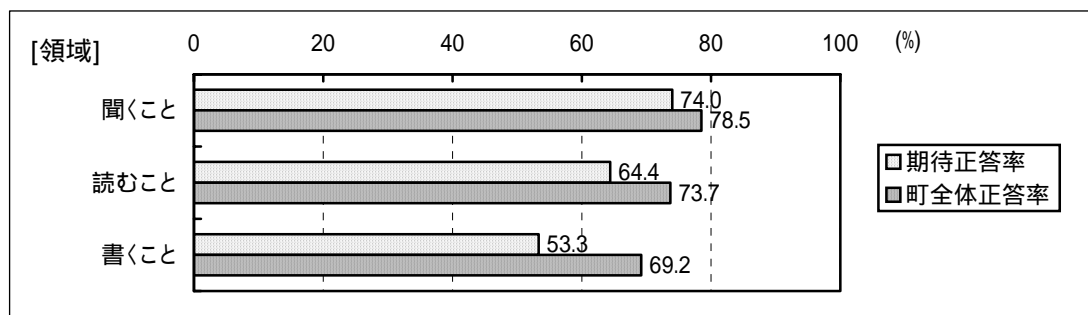
正答率	0	1～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100
生徒の 割合	0.3	0.0	0.6	3.5	3.8	4.7	6.8	13.8	16.2	25.0	23.8	1.5



町全体では、正答率80%以上の生徒が50.3%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が12.9%存在する。

(1) 領域ごとの分析

	聞くこと	読むこと	書くこと
期待正答率(%)	74.0	64.4	53.3
町全体正答率(%)	78.5	73.7	69.2



聞くこと

聞くことに関しては、期待正答率が74.0%であるのに対し、町全体正答率は78.5%であり、おおむね満足できる結果であると言える。

しかし、大問2(3)において、正答率が期待正答率を下回っている。

解決法として次の2点が重要である。

1) 英文全体を聞き取る力

キーワードを聞き取り、全体が何についての話なのかを聞き取ることが大切である。

大問2(3)であれば、summer、visit、Chinaなどを聞き取り、そこから全体を推測しながら聞き進めることが肝要である。

2) 時制を聞き取る力

動詞を的確に聞き取り、未来、過去、現在などの表現について正確につかむことが大切である。

その際、this summerや yesterdayなどの補助語の情報を助けとすることができる。

読むこと

読むことに関しては、期待正答率が64.4%であるのに対し、町全体正答率は73.7%であり、満足できる結果であると言える。

しかし、大問3(1)(3)(5)において、正答率が期待正答率を下回っている。

大問3の全体においては、やや複雑な内容を、時間の流れを追いながら読み進めることが求められる。今は何月で、出発予定が何月なのか、という話の流れをきちんと理解しながら読み進めることが大切であり、時間の流れをメモしておくとうい。

書くこと

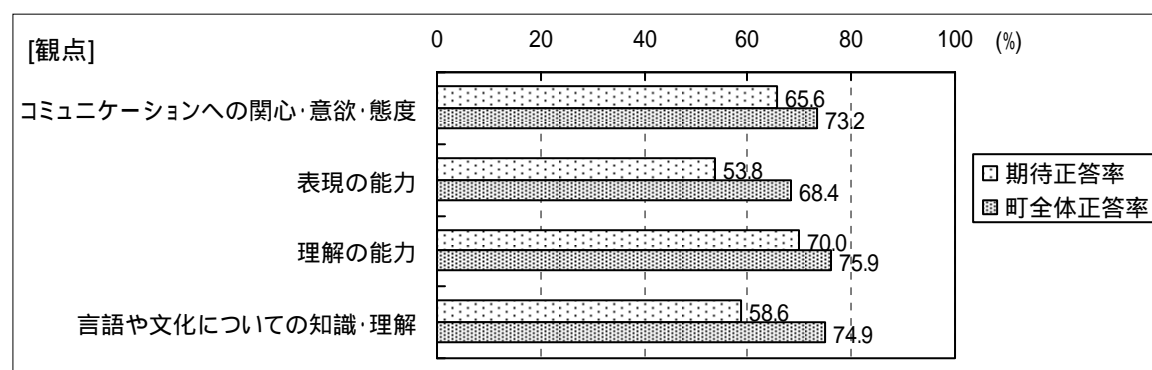
書くことに関しては、期待正答率が53.3%であるのに対し、町全体正答率は69.2%であり、満足できる結果であると言える。

しかし、大問7(1)において、正答率が期待正答率を下回っている。

このような条件英作文問題において正答率を上げるには、授業中のコミュニケーション活動の中で、これらの英語を何回も使わせることである。例えば、ペアをつくり、お互いに質問させ、相手に答えさせる活動や、任意の1文をきっかけに会話を継続させる活動などが考えられる。また、一定の状況を折りこんだスキット作りなども考えられる。ある状況の下でどのような英語を作ればよいかについて学習していくことが、書く力をつけるための早道なのである。

(2) 観点ごとの分析

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
期待正答率(%)	65.6	53.8	70.0	58.6
町全体正答率(%)	73.2	68.4	75.9	74.9



コミュニケーションへの関心・意欲・態度

コミュニケーションへの関心・意欲・態度に関しては、期待正答率が65.6%であるのに対し、町全体正答率は73.2%であり、おおむね満足できる結果であると言える。

しかし、リスニングパートの大問2(3)、およびライティングパートの大問7(1)において、正答率が期待正答率を下回っている。

各パートの解決方法は、領域ごとの分析のとおりであるが、概してコミュニケーションへの関心・意欲・態度に関しては、授業中にコミュニケーションを目指した活動をどのくらい取り入れているか、ということと大きく関わる。単にドリルや問題演習に終始するのではなく、練習したものがコミュニケーションの道具として使えるということを意識させるような授業展開が望ましい。スキット、スピーチなどは、自分自身の事柄を英語で言うことであり、中学生にとっては好ましいコミュニケーション活動であると言える。

表現の能力

表現の能力に関しては、期待正答率が53.8%であるのに対し、町全体正答率は68.4%であり、満足できる結果であると言える。

しかし、ライティングパートの大問7(1)において、正答率が期待正答率を下回っている。

書くことの能力を伸ばすには、日ごろの授業で書く練習を行う必要がある。しかし、昨今の「聞くこと」「話すこと」を大切にした授業からは、「書くこと」に十分な時間を割くことができないのが実情である。したがって、毎回の授業では、1文～2文程度でも書かせる時間をとりたい。例えば、前時の復習において、既習の本文のターゲット文を書かせる、あるいはディクテーションを行う、などである。また、時間が多くとれる場合や長期休業にあたっては、自分の日記を書かせたり、スピーチの原稿を書かせたりするなどして、書くことへの興味・関心を持たせたい。

理解の能力

理解の能力に関しては、期待正答率が70.0%であるのに対し、町全体正答率は75.9%であり、おおむね満足できる結果であると言える。

しかし、リスニングパートの大問2(3)、およびリーディングパートの大問3(1)(3)(5)において、正答率が期待正答率を下回っている。

各パートの解決方法は、領域ごとの分析のとおりであるが、一般的な理解の能力を伸ばすためには、日ごろの授業の中で新しい題材を導入した後に、英語（または日本語）によるQ Aを入れることが有効である。つまり、題材に何回も触れさせて教科書を見返し、理解を確実なものにしながら授業を進めていくことが大切なのである。

言語や文化についての知識・理解

言語や文化についての知識・理解に関しては、期待正答率が58.6%であるのに対し、町全体正答率は74.9%であり、満足できる結果であると言える。

該当するすべての小問が期待正答率を上回っており、特に問題となる点は見あたらないが、一般的な言語知識に関して言えば、たびたび単語テストをしたり、まとめの文法テストを行ったりして、定着を確かめながら指導を進める必要がある。また、教科書本文には復習すべき内容がたくさん含まれているので、折に触れて以前学習した項目を復習することが大切である。ただし、説明に時間がかかり過ぎると生徒がだれてしまうので、できるだけ生徒に質問する形式をとり、スムーズに進めることが大切である。